

日本酒「あしべつだけ」を発売

芦別産の酒米と水を使った日本酒「あしべつだけ」が5月1日から市内の酒店で販売されています。

これは、芦別の新たな特産品づくりを目指して、市内の農業者や商業者でつくる芦別食農産業推進協議会が企画・販売したもので、一昨年秋の、どぶろく「あしべつだけ」に続く第2弾。

発売された日本酒は、市内で生産された酒米品種「彗星^{すいせい}」と新城地区でくみ出した伏流水を使い、小樽市内の酒造会社に委託して醸造した純米吟醸酒。

4月30日には、総合福祉センターで発表・試飲会=写真上=が行われ、参加者からは「辛口ですっきりとしている」と評判は上々でした。



右から、一升瓶(3,240円)、四合瓶(1,680円)、原酒四合瓶(2,160円)。いずれも税込



新城町の芸術文化交流館が開館10周年を迎える



新城町にある芦別市芸術文化交流館が、今年で開館10周年を迎えました。

同館は、平成16年に閉校した旧新城小学校の校舎をそのまま再利用して18年に開館。市内外の芸術家がアトリエを構えるなど活動の拠点としているほか、作品を常時公開しており、「芸術の郷しんじょう 田舎の美術館」として親しまれています。

5月1日には、新城町内の住民の皆さんも出席して今年の開館セレモニーが行われました。

現在、同館では開館10周年を記念して、7月31日まで道展中空知支部展を開催しています。

入館無料。午前9時から午後5時まで。月曜日休館。問い合わせは、同館(☎28-2021 11月5日まで)へ。

旭ヶ丘公園で夜桜ライトアップ

5月1日から6日まで、旭ヶ丘公園で「夜桜ライトアップ」が行われました。同公園の桜の名所としての知名度アップを図ろうと初の試み。

例年、桜の見ごろは大型連休期間中の後半以降ですが、今年は春以降平年より気温が高い日

が続き、市内で桜が開花したのは4月28日。

好天に恵まれた2日夜には、家族連れなどが訪れ、ライトに浮かび上がった満開の桜を見物。記念写真を撮ったり、市内の夜景を楽しんだりする姿も見られました。



「雇用と産業結びつけた観光戦略を」。地域振興セミナーで小磯氏講演



北海道大学公共政策大学院特任教授の小磯修二氏を講師に迎えての地域振興セミナーが5月18日、芦別商工会議所で開催されました。芦別商工会議所が主催し、約100人が参加しました。

小磯氏は、「人口減少下の地域戦略を考える」と題して講演。長年、行政現場で地域開発や経済分析に取り組んだ経験を踏まえながら、「観光はこれ

から伸びる要素のある大事な戦略だが、集客の発想から脱皮して、地域の産業と雇用を結びつける幅広い分野の複合産業戦略としてとらえることが大切」と述べました。

また、周辺地域との連携も視野に入れながら、「住民と産業、行政が一体となり、地域人としての発想と行動力を持つことが重要」と強調しました。